

北条鹿島のシカ保護管理計画

～人とシカと植物の良好な関係をめざして～

概要版

平成26年4月

松山市 観光・国際交流課

1. 計画策定の背景及び目的

松山市北条沖に浮かぶ鹿島には、ニホンジカ（以下シカ）の生息が知られており、昭和23年には県の天然記念物に指定された。シカによって島の植生に影響が見られるようになったため、昭和36年には島の植生保護やシカの保護と観光面への活用を目的にその多くをシカ園に収容した。その後、シカ園内外とも生息数の増減を繰り返し、シカの増加による樹木や草本への被食が目立つようになった。この状態が続くと、花崗岩地や安山岩地というもともと植生の発達しにくい自然条件と相まって、林の裸地化が促進されることで、島内環境の悪化が懸念されている。

そこで本計画は、北条鹿島におけるシカ管理の方針を示すものであり、具体的な施策のための実行計画を策定し実施する時の指針となるものである。この計画の目的は、島内の健全なシカ個体群の維持と森林生態系の保全を図り、かつ、人々に親しまれるような環境づくりをすることである。

2. 管理すべき鳥獣の種類

鳥獣の種類は、ニホンジカ：*Cervus nippon* Temminck, 1838 である。

3. 管理すべき鳥獣の個体数

シカ園外 55 頭（オス 14 頭、メス 40 頭、当歳獣 1 頭）シカ園 32 頭（オス 13 頭、メス 16 頭、当歳獣 3 頭）計 87 頭である。

※平成24年11月調査結果による。

4. 計画の期間

管理計画の有効期間は、平成26年4月1日から平成31年3月31日までとする。

ただし、有効期間内であっても、生息状況や社会状況等に大きな変動が生じた場合は、必要に応じて修正及び調整を行なうものとする。

5. 管理が行なわれるべき区域

鳥獣の管理が行なわれるべき区域は、北条鹿島公園全域とする。

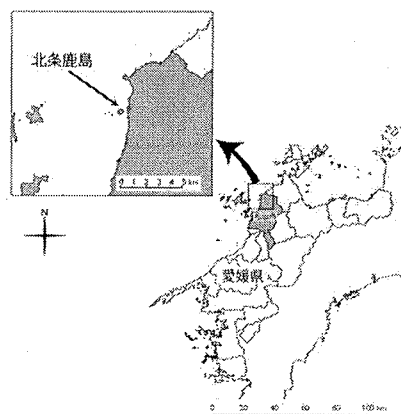


図1. 北条鹿島位置図

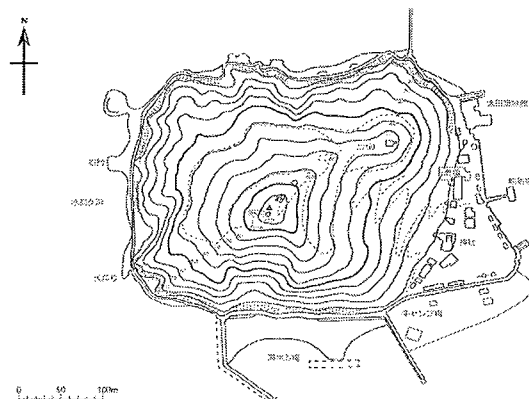


図2. 北条鹿島全図

北条鹿島のシカは、愛媛県の天然記念物であり、地域の住民からは「鹿島のシンボル」として親しまれているため、地域的な背景も考えていかなければならない。

以上の点を考慮して、本計画の管理の目標を以下のとおりとする。

- ・シカの個体数を現状の水準より増加させず、かつ過度の減少も避け、健全な状態で存続させる。
- ・植生に対してのシカによる過度の被食をなくし、森林生態系を保全する。
- ・観光資源としての魅力を保ち、かつ観光客等に危害を加えず、人とシカとの関係を良好に保つ。

7. 目標を達成するための施策の基本的な考え方

- ・目標を達成するための施策として、島内のシカを島内のシカ園内とシカ園外に分けて飼育するものとする。

8. 目標を達成するための具体的な取り組み

島内のシカを島内のシカ園内で飼育するシカとシカ園外で放し飼いにするシカに分けて管理する。既存のシカ園へ捕獲したシカを飼育することは環境上、困難であるので、島内にシカ園を新設し頭数管理を行う。シカ園外に放し飼いにするシカは、個体数の増加防止と観光客等の安全確保の観点からメスジカのみとする。シカ園外に放し飼いにするメスジカの個体数は第一段階として10頭以下を想定する。これは放し飼いのシカの採餌の大部分が園外給餌でなされること、そのことにより植生被害が植生の回復を阻害しない程度の軽微なものであることが前提である。植生被害が大きい場合は放し飼いのシカの個体数を減少することを検討し、また植生被害が軽微でかつ人目に触れることが少なく観光資源としての価値が低下する場合は慎重な検討を経て、放し飼いのメスジカの個体数を増やす可能性もある。

放し飼いにするシカ以外を捕獲し島内に新設した施設内において永続的に飼育する。飼育施設内では、餌量を調整したり、オスとメスを隔離飼育したりすることによってシカの個体数を管理する。

シカ園外の個体は総てメスとするため、観光客等にシカが怪我を負わせる危険性が低くなり、また補充が無ければ減少していくが、シカ園内の飼育個体について適切に繁殖管理を行うことによって、必要に応じてシカ園外へ健全な個体を補充することができる。

9 その他の取り組み

- ・林内の樹木への保護網

林内の幼木に保護網を巻く。全ての樹木に巻くのではなく優先順位をつけて行なう。現在巻いてある樹木についても、破れたものは補修し、幹に密着しすぎて樹皮剥ぎが可能となっているものは適切に改修する。

- ・植物保護区画

島の林内に複数箇所の保護区画を、偏りのないように分散させて設ける。原則、2種以上の高木か亜高木が10本入る広さの矩形とするが、地形等に合わせ形状は可変とする。区画はシカ用の防護ネット等を用いた網柵（以下網柵）で囲んでシカの内部への侵入を防ぎ、管理者等のための出入り口をつけておく。